

士別市過疎地域持続的発展市町村計画(案) に対するパブリックコメント実施結果

士別市過疎地域持続的発展市町村計画(案)について、士別市パブリックコメント制度実施要綱に基づき市民意見を募集したところ、1名の方からご意見をいただきました。

寄せられたご意見の内容及びご意見に対する市（行政）としての考え方を次のとおり公表します。

① パブリックコメントの実施状況

- (1) 募集期間 令和7年12月17日から令和8年1月16日正午まで
- (2) 意見提出者数 1名
- (3) 提出方法 WEB入力フォーム
- (4) 担当部署 総務部企画課

No.	寄せられた意見	市の考え方
1	<p>国と道の施策の積極的な活用を</p> <p>(1) 国は過疎化に対する法整備をしており、財政が厳しい士別市だからこそ、総務省の過疎地域持続的発展支援交付金、国土交通省の地域公共交通に関する補助制度など各省庁の施策を積極的に活用してください。</p> <p>(2) 令和6年の改正地方自治法において、指定地域共同活動団体制度が創設されました。今後、情勢をふまえた新たな法制度への関心を深め、住民本位の行財政確立の研究を積み重ねることも必要ではないでしょうか。基礎的なことは自治体が直接行うことを基本に、住民の主体的な参加と連携、協働を図り、既存の制度も活用しながら、地域の実態に即して住民自治の推進、持続可能なまちづくりを進めることが求められています。</p>	<p>(1) 本計画の策定のもと、本市の持続的発展に向けて、過疎対策事業債を引き続き活用します。また、過疎地域持続的発展支援交付金をはじめとするその他の国の過疎対策支援についても、第2期士別市まちづくり総合計画（以下、総合計画。）及び士別市過疎地域持続的発展市町村計画に掲げた施策と整合のある支援制度の活用を検討しています。</p> <p>(2) 本市では、まちづくり基本条例に基づき、市民自治、情報共有を原則としながらまちづくりを進めています。今後も、持続的発展のため、安定的な行財政の運営を図りつつ、総合計画に基づき、各事業に着実に取り組んでいきます。</p>

2	<p>公共施設にかかわって、所管と自治体の垣根を越えた連携を</p> <p>(1) 各施設の管理は、所管するそれぞれの部署で行われてきましたが、今後は、限られた経営資源で効率的に活用していくため、担当所管の垣根を越えた連携や統一的な方針のもと、効率的な維持管理や長期保全をしていくとしています。今後、教員住宅・市営住宅の活用、日向森林公園の活用、空き家対策、公共施設の相互利用、医療施設の在り方など市有財産の柔軟な対応と検討が必要ではないでしょうか。また、北・北海道中央圏域定住自立圏（広域連携）による具体的な対策を望みます。</p>	<p>(1) 土別市公共施設マネジメント基本計画に基づき、引き続き「最適化」「効率化」「長寿命化」の視点で施設の利活用を図り、特定遊休財産制度の運用など、有効活用に向けた取り組みの見直しを進めます。また、定住自立圏の枠組みを活用した取り組みにより、ごみ処理や学校給食をはじめ、一定の広域連携化が進められていますが、今後の人口減少や将来の財政運営を見据え、国や北海道とも連携しつつ、一層の広域連携について検討を進めます。</p>
3	<p>過疎地だからこそ、人権を守る具体的な取り組みを</p> <p>(1) 「未らいの土別共創」では、「移住・定住の促進」や「関係人口の創出」「企業誘致の強化促進」などの各施策に取り組むと明記されています。</p> <p>私は30数年間、首都圏で働き暮らしてきました。外国人労働者の家族が地元の学校に通い、職場ではLGBTQ2+が制度化され、女性共同参画が浸透する社会環境でした。大企業が集中する東京で働いていた私にとって、田舎の素晴らしい伝統と地域の優しさを感じるとともに、都会では「常識」となっている人権意識が、地方ではまだ未成熟であることを実感した6年間でした。土別にある大企業のホームページには以下の文面がありました。「性別、年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、性的指向、性自認、障がい、配偶者や子の有無などにかかわらず、世界中にいる、仲間一人ひとりが、より輝く」—世界のなかでの起業の理念と社会的役割、人権意識が伝わっていました。北海道では、</p>	<p>(1) 令和5年に成立・施行された「LGBT理解増進法」に基づく、多様性の尊重と全ての国民が安心して生活できる環境の両立に向けた国の施策を注視するとともに、近隣市町村とも連携を図っていきます。</p>

<p>性的マイノリティの方々に対する理解促進のため、様々な取組を行っています。士別市としても近隣自治体と協力しながら条例化にむけて問題意識を深めていただきたいと思います。</p> <p>(2)大自然と農業と人間性の豊かさあふれる士別市</p> <p>これまで地震など自然災害が少なかった士別も、1月以降の宗谷地方南部の地震や「根室沖地震発生30年以内に起きる確率90%」の報道に見られるように、地震や水害などの自然災害は、いつ、どこで発生してもおかしくありません。あらためて住民自治とコミュニティの大切さを実感しています。</p> <p>首都圏に住んでいて感じたのですが、北海道以外に住んでいる人にとっては、士別は「道北地方」の一部というとらえ方です。そんななか、移住したい場所は、住むところがあり、仕事ができ、一人ひとりの人権が尊重されるコミュニティが豊かで、安心して子育てできる医療が充実した文化的なまちではないでしょうか。都会の喧騒を忘れ、澄んだ空気と広い空のもとで過ごすあたたかいローカルたちとの交流が心を癒す…。そんな豊かなまちづくりをすすめるためには、士別だけではなく、道北の自治体との連携がとても重要だと思います。もっと国と北海道の力を借りながら、市民とともに知恵を出し合い、誰もが安心して地域で豊かに暮らせる士別市にしたいと願っています。</p> <p>住民が主人公！社会教育を基盤とした「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を通じて、世代を超えてアイデアを出し合い、地域でわくわくするとりくみをすすめていきたいです。</p>	<p>(2)令和6年度に実施した市民アンケートでは、士別市への愛着や暮らしの満足度のほか、地域における役割、地域とのつながりなども密接に関係することが分析され、幸福度の測定においては、10点中6.677点となっています。今後も、住み慣れた地域で安心して暮らしながら、住んで良かったと思えるよう、アンケートの結果を踏まえつつ、総合計画に掲げる施策に基づきまちづくりを進めていきます。あわせて、近隣自治体や定住自立圏域の自治体と連携しつつ、道北地域の魅力向上に努めていきます。</p>
--	--